



ADVANTEST[®]

2019年度（2020年3月期） 第3四半期決算説明会

2020年1月29日
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ご注意

会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



```
...mirror_object = ...
operation == "MIRROR_X":
mirror_mod.use_x = True
mirror_mod.use_y = False
mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Y":
mirror_mod.use_x = False
mirror_mod.use_y = True
mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Z":
mirror_mod.use_x = False
mirror_mod.use_y = False
mirror_mod.use_z = True

selection at the end -add
obj.select= 1
obj.select= 1
context.scene.objects.active
= "Selected" + str(modifier)
mirror_ob.select = 0
```

2019年度第3四半期決算報告

取締役 兼 常務執行役員 藤田 敦司

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST[®]

四半期業績推移

(億円)

	FY18				FY19				前期比		前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	増減額	増減率	増減額	増減率	
	受注高	706	762	627	657	659	583	729	+146	+25.1%	+102	+16.2%
売上高	709	727	749	640	662	716	699	-17	-2.3%	-50	-6.7%	
売上総利益	382	389	425	344	394	410	394	-16	-3.9%	-31	-7.3%	
売上総利益率	53.9%	53.6%	56.8%	53.8%	59.5%	57.3%	56.4%	-0.9pts		-0.4pts		
営業利益	158	180	207	102	152	177	142	-35	-19.6%	-65	-31.2%	
営業利益率	22.3%	24.7%	27.6%	15.9%	22.9%	24.8%	20.4%	-4.4pts		-7.2pts		
税引前四半期利益	165	186	206	105	149	184	145	-39	-21.0%	-61	-29.8%	
四半期利益	139	162	179	90	121	147	119	-27	-18.7%	-60	-33.3%	
四半期利益率	19.6%	22.4%	23.9%	14.0%	18.3%	20.5%	17.1%	-3.4pts		-6.8pts		
IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整	-30											
Astronics社SLT事業譲受に伴う 受注残の増加				+24								
受注残	795	830	708	749	746	613	643	+30	+4.9%	-65	-9.2%	
為替レート	1米ドル	108円	111円	113円	111円	108円	108円	-		5円 円高		
	1ユーロ	131円	129円	130円	126円	125円	121円	2円 円高		11円 円高		

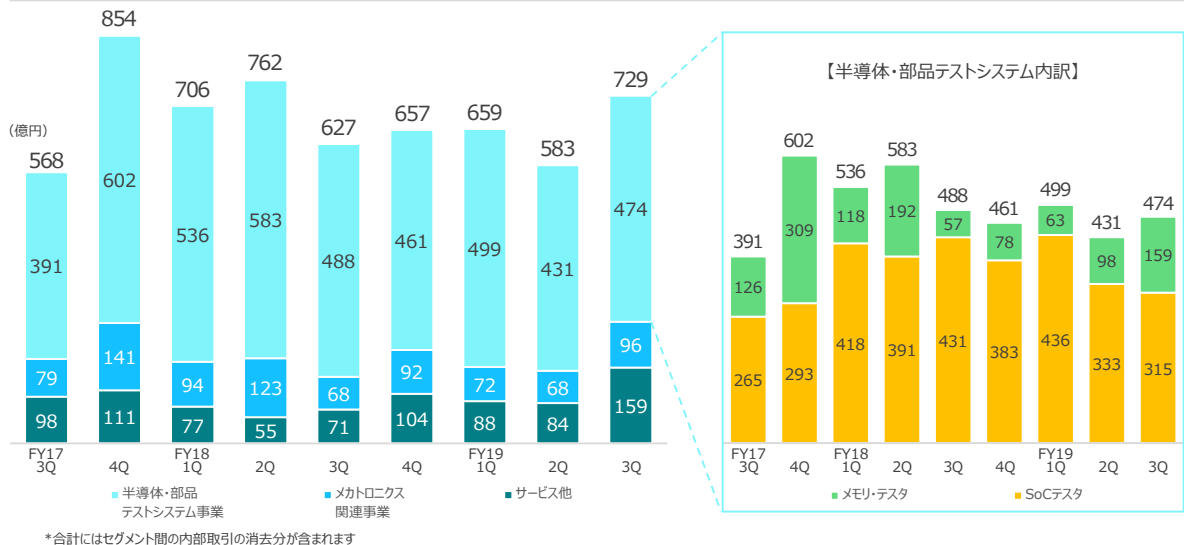
4 | ADVANTEST

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○ 2019年度第3四半期の業績概要

- 3Qの事業環境を振り返ります。
- 世界経済の不透明感、米中貿易摩擦の長期化、半導体市場の停滞感などを踏まえ、3Qの受注は2Q比減少するという流れを予想していました。
- しかしながら年末に向かうにつれて、メモリやストレージ関連のテストの引き合いが前倒し気味に到来したこと、またサービス他事業に組み入れているシステムレベル・テスト関連の引き合いが想定よりかなり伸びたことにより、受注については2Qから146億円増加し、729億円となりました。
- 受注の増勢に支えられ、メモリ・テスト販売も伸びたことなどにより、3Qの売上高は699億円、営業利益は142億円と、どちらも3か月前の想定より良い進捗を収めることができました。
- 受注、売上、利益の詳細は、次以降のスライドで順次ご説明いたします。

四半期受注高 事業セグメント別



○ 2019年度第3四半期の事業別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前期比 10.1%増 474億円
- 内訳としては、SoCテストが315億円となりました。メモリ・テストは159億円でした。
- SoCテストは、2Q比若干の減少となりましたが、上期同様、5Gスマートフォンに搭載される次期先端SoCに対する積極的なテスト発注が3Qも継続されました。
- メモリ・テストは、5Gスマートフォンの旗艦モデルに使われる、LPDDR5用のテストへの引き合いが前倒し気味に到来したこと、フラッシュメモリ向けの投資が戻ってきたことで、3か月前の計画より上振れての着地となりました。

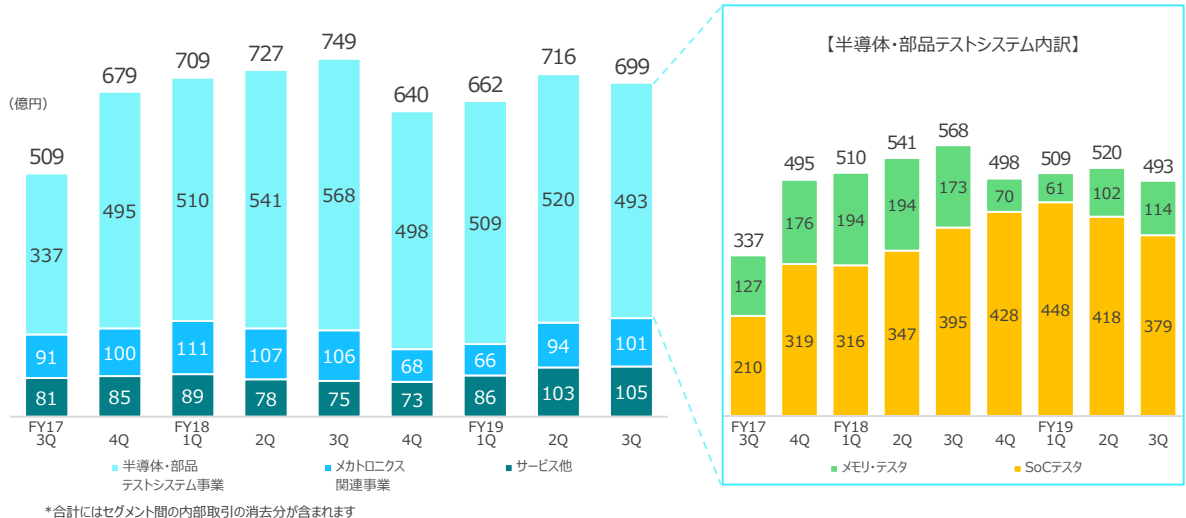
○ メカトロニクス関連事業

- 前期比 41.6%増 96億円
- メモリ・テスト受注の想定以上の伸びと連動し、当セグメントの受注も想定以上でした。

○ サービス他

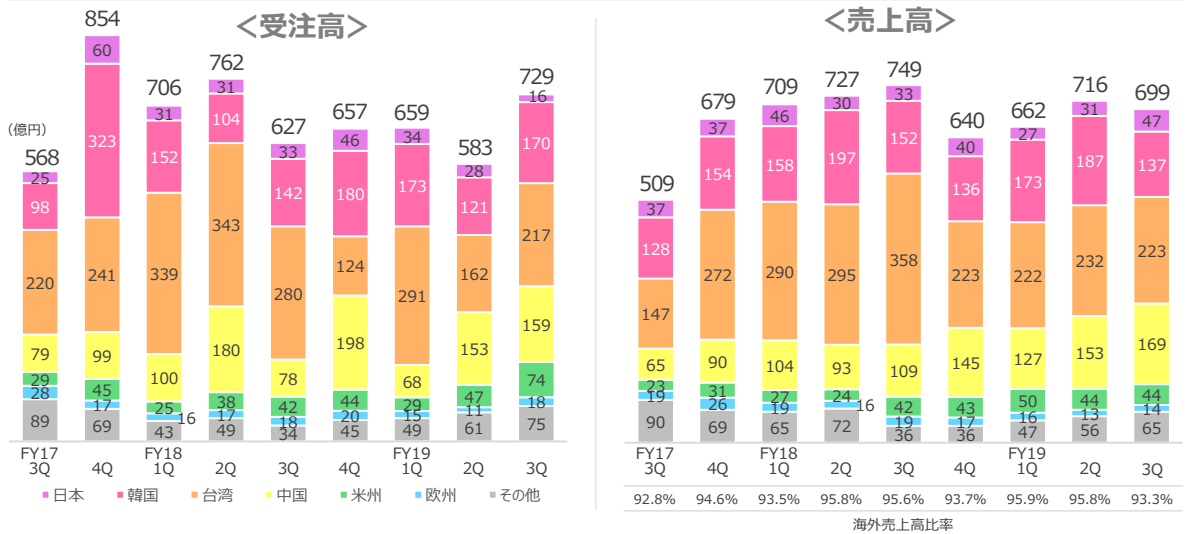
- 前期比 88.9%増 159億円
- 年間保守契約の季節性の増加に加え、システムレベル・テスト関連の受注がSSD向け、SoC向け、ともに期待より好調に推移し、事前の予想をかなり超えた着地となりました。

四半期売上高 事業セグメント別



- 2019年度第3四半期の事業別売上高
- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・ 前期比 5.2%減 493億円
 - ・ SoCテストは、379億円。受注同様、5Gスマートフォンの本格販売を控え、SoC新製品の量産に向けた顧客各社の動きが3Qも高水準でした。
 - ・ メモリ・テストは、114億円でした。中国・台湾メモリ企業向けの売上が堅調でした。
- メカトロニクス関連事業
 - ・ 前期比 8.0%増 101億円
- サービス他
 - ・ 前期並み 105億円

四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別



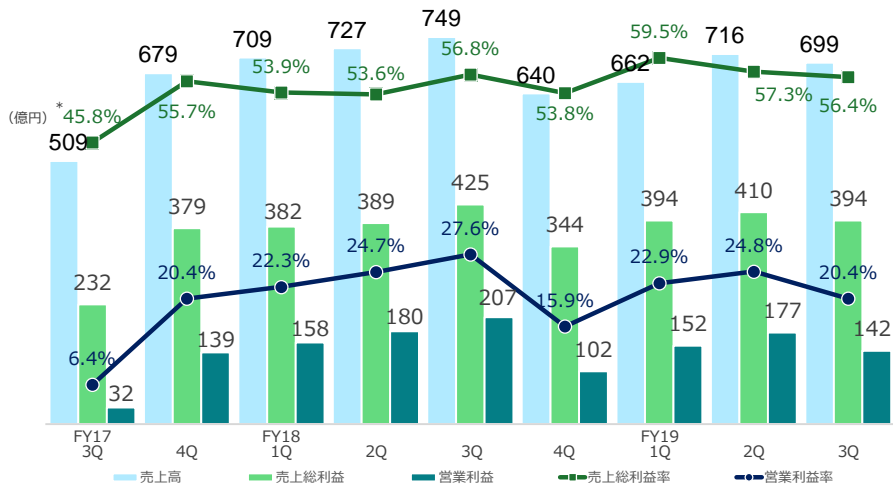
○ 2019年度第3四半期の地域別受注高

- 韓国
ここ数四半期のトレンドどおり、スマートフォン関連中心に、SoCビジネスが堅調でした。LPDDR5量産用テストの受注により、これまで低調だったメモリ・テスト受注も上向いています。
- 台湾
5Gスマートフォン用の先端SoCの量産向けテストの高水準な受注が継続しています。
- 中国
中国ローカル半導体企業のSoCテスト、メモリ・テスト双方への積極的な投資が継続しています。

○ 2019年度第3四半期の地域別売上高

- 韓国
2Qに前倒し気味にメモリ・テストを販売したことによる反動減で、四半期比較では減少しています。
- 台湾、中国
どちらの地域もSoCテストの好調とメモリ・テスト需要の拡大を背景に、堅調な販売状況が続いています。

売上高/売上総利益/営業利益



*FY17 3Qにナノテクノロジー事業の棚卸資産評価損(33億円)を計上しています。
この評価損影響を除いたFY17 3Qの売上総利益率は、52.3%となります。

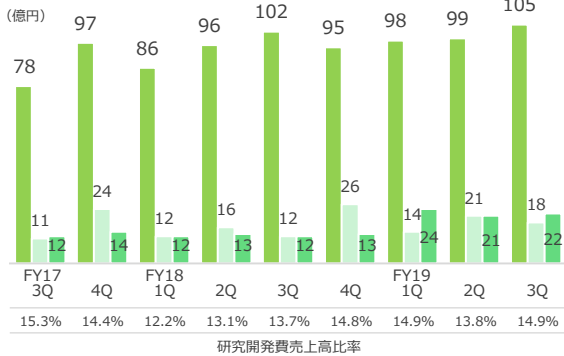
○ 2019年度第3四半期の営業利益

- 売上総利益率 56.4%
プロダクトミックスは2Qに比べるとやや悪化しましたが、55%を超える水準を維持することができました。
- 販管費等 252億円
1Q以降、今後の成長投資として積極的に増員を進めた関係で、上期と比べ、費用がやや増加しています。
- 営業利益 142億円
- 営業利益率 20.4%
前年同期の差が大きいです。FY18の3Qは、年金制度の変更に伴う一過性の利益約25億円が、営業利益を押し上げたためです。

投資等/キャッシュ・フロー

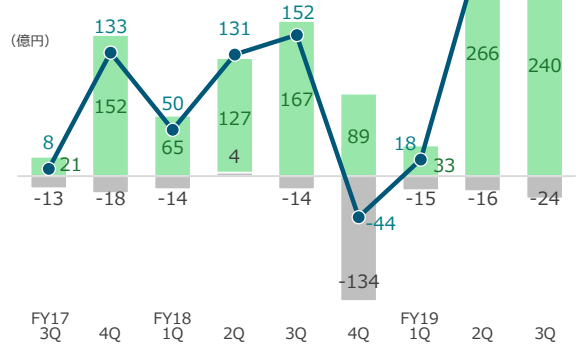
<投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費



<キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー



*フリー・キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

○ 2019年度第3四半期の研究開発費等

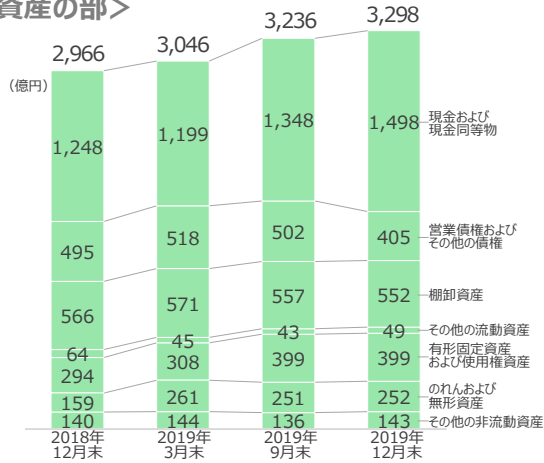
- 研究開発費 105億円
増員を進めた関係で逡増しています。
- 研究開発費売上高比率 14.9%
- 設備投資 18億円
- 減価償却費 22億円
従前お伝えしている通り、今年度からのIFRSの新リース会計基準適用と、2月にAstronics社から譲り受けたシステムレベル・テスト事業の無形資産償却費が多めに出ていることで、前年度と比べ増加しています。

○ キャッシュ・フローの状況

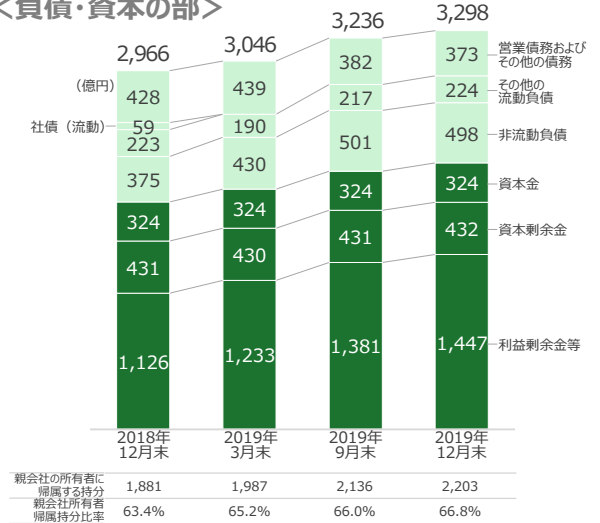
- フリー・キャッシュ・フロー 216億円
2Qに引き続き営業債権の回収が進んでおり、高水準な収入です。

連結財政状態

<資産の部>



<負債・資本の部>



○ 2019年12月末時点のバランス・シート

- ・ 総資産 3,298億円
- ・ 現金および現金同等物 前期比150億円増 1,498億円
- ・ 親会社の所有者に帰属する持分 2,203億円
- ・ 親会社所有者帰属持分比率 前期比0.8ポイント増 66.8%



2019年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST[®]

半導体テスト市場の動向 <20年1月時点の見方>

CY19実績（暫定）

- 5G向けを中心に、ハイエンドSoCの開発/生産用テスト投資が想定以上に加速・拡大。SoCテスト市場は前年を超過
- メモリ・テスト市場も、メモリ高性能化や中国メモリ企業の量産開始などに支えられ、持ち直し

CY20予想

- CY19の想定以上の伸びを受け、SoCテストの市場規模は現時点で横ばいを見込むが、半導体の進化と同期したテスト能力向上投資が市場を牽引する構図は不変
- メモリ・テスト市場は回復途上。DRAM市況改善の進展次第で、一段の需要増の可能性

	CY18実績	CY19実績（暫定）	CY20推定
SoCテスト市場	約\$2,550M	約\$2,700M (10月時点推定:「約\$2,600M」)	約\$2,700M
メモリ・テスト市場	約\$1,150M	約\$650M (10月時点推定:「約\$550M」)	約\$800M

○ テスタ市場の見方

- まだ暫定値ですが、CY19のテスト市場の規模についてです。
- SoCテスト市場は、5G向けを中心に、ハイエンドSoC用テストの需要が想定以上に加速・拡大し、前年実績を超過しました。
- メモリ・テスト市場も、メモリ高性能化や中国メモリ企業の量産開始に支えられ、10月時点の見通しから持ち直しました。
- 半導体の高性能化に即したテスト強化・信頼性保証ニーズ拡大が、テスト市場の成長を牽引していくという構図は不変です。
- CY20のSoCテスト市場については、CY19の想定以上の伸びを受け、現時点では横ばいを見込んでいます。メモリ向けは、20%強の伸びという見通しです。
- CY19の市場シェアについては、SoCは55%前後、メモリは約50%と、全体で5割以上のシェアを、2年連続維持できたと見積もっています。
- 5G関連のSoCテスト需要は、当初、もっとスローな立ち上がりを想定していました。実際は想定より早く、大きな需要がCY19に立ち上がりました。そのあたりの入り繰りもあり、CY20のSoCテスト市場はCY19と同レベルと、今は予想しています。
- メモリ・テスト市場は、回復しつつありますが、本格回復には少し時間を要するとみています。DRAM市況の改善が顕在化するにつれ、顧客のテスト投資意欲が一段高まる展開を期待しています。

FY19業績予想

	FY18 実績	FY19				前年度比		(参考)新旧予想比較	
		上期 実績	下期 予想	通期予想	増減額	増減率	10月時点 FY19予想	修正額	
受注高	2,752	1,242	1,458	2,700	-52	-1.9%	2,350	+350	
売上高	2,825	1,378	1,322	2,700	-125	-4.4%	2,470	+230	
営業利益	647	329	231	560	-87	-13.4%	450	+110	
営業利益率	22.9%	23.9%	17.5%	20.7%	-2.2pts		18.2%	+2.5pts	
税引前利益	662	333	234	567	-95	-14.4%	458	+109	
当期利益	570	268	222	490	-80	-14.0%	365	+125	
当期利益率	20.2%	19.4%	16.8%	18.1%	-2.1pts		14.8%	+3.3pts	
受注残	749	613	749	749	-	-	629	+120	
為替レート*1	1米ドル	110円	109円	107円	108円	2円 円高	107円	-	
	1ユーロ	129円	123円	120円	121円	8円 円高	121円	-	
ROE	35.3%	-	-	22.8%	-12.5pts		17.6%	+5.2pts	
1株当たり配当金*2	92円	41円	34円	75円	-		未定	-	

*1: 為替レートの変動がFY19の営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円高時マイナス6億円です。対ユーロはプラス1億円です。

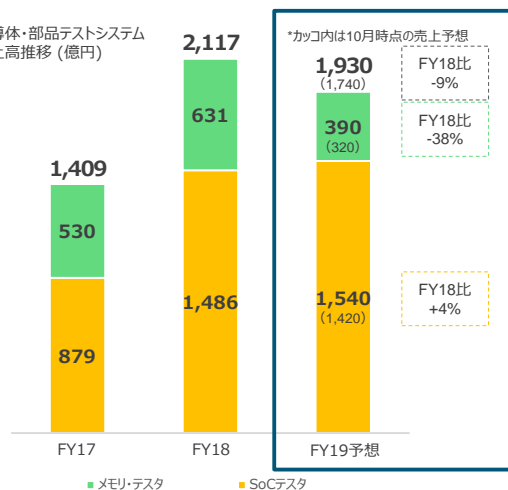
*2: FY18の1株当たり配当金は、上期が50円、下期が42円です。

○ 2019年度の業績予想

- 3Qまでの実績と4Qの業績予想を踏まえ、今年度の業績予想を再度上方修正します。
- 4Qの受注高は729億円、売上高は623億円、営業利益は89億円、四半期利益は103億円を予想しています。4Qの前提レートは米ドルが105円、ユーロが120円です。
- 通期予想は10月時点の予想から、受注で350億円、売上は230億円の増額となります。
- 通期の売上総利益率予想は約57%です。ここは前回から見方はあまり変わっていません。
- 営業利益については110億円、当期利益については125億円、それぞれ10月時点の予想から引き上げています。
- 4Qの四半期利益予想には、先ほど説明したCY20の市場予測などを踏まえ、将来の税金費用の減税効果を見込んだ繰延税金資産の計上を考慮しています。

FY19見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム
売上高推移（億円）



半導体・部品テストシステム事業

<SoCテスト>

- 5G用などハイエンドSoC向けは、上期比ベースダウンも、3か月前の予想ほど需要鈍化せず。年度売上予想を修正
- 好調だったFY18をさらに超え、SoCテスト事業の過去の売上記録を更新へ

<メモリ・テスト>

- 市場環境にいつもの改善感
- 4Qもフラッシュ向けやDRAM高速テスト向けの需要を見込む

○ SoCテスト事業の今期見通し

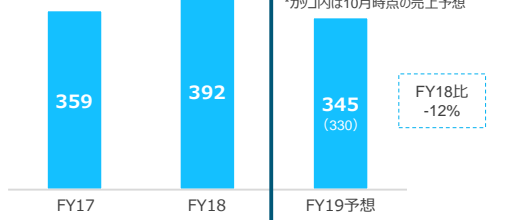
- SoCテスト市場では、5G端末用のアプリケーション・プロセッサやベースバンド・プロセッサに対するテスト投資が加速気味に展開されました。
- 4QのSoCテストの売上予想は、その反動減が起こる可能性を織り込んでいます。ただし3ヶ月前よりも、4Qの需要は上がっています。
- それらを踏まえ、SoCテストの年度売上予想を、120億円引き上げます。グラフの通り、SoCテスト事業は、ハイエンドSoC向けの需要増に支えられ、好調だったFY18の実績をさらに上回る、非常に好調な年度となりそうです。

○ メモリ・テスト事業の今期見通し

- 先ほど触れたとおり、メモリ・テスト市場は改善感が高まっています。
- フラッシュ・メモリ関連がまず動き出しました。在庫調整が進み、テストの投資再開がなされています。
- DRAMは、市況が全面的に戻るまでに時間がかかりそうですが、インタフェースのテスト工程で、スマートフォン用のLPDDR5の立ち上がりが見られていたよりも早く動いています。
- 中国ローカルのフラッシュ・メモリ、DRAMそれぞれの企業も、投資が活発です。
- これらを踏まえて、メモリ・テストも今期の売上見通しを70億円、増額します。

FY19見通し（事業別）

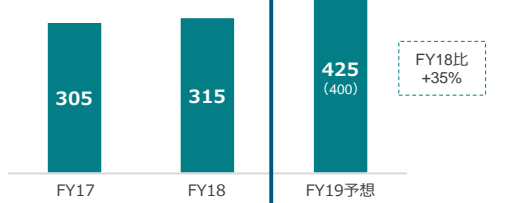
メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



メカトロニクス関連事業

- メモリ顧客のテスト投資の戻りに即し、インタフェース製品需要も想定より若干好転

サービス他 売上高推移（億円）



サービス他事業

- 中核事業であるフィールド・サービス売上は堅調に推移
- システムレベル・テスト事業もSSD向け、SoC向けともに堅調

○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- メモリ・テスト売上見通しの引き上げに合わせて、メカトロニクス関連の売上予想を15億円上乘せし、345億円とします。
- サービス他事業は今期の売上予想を25億円増額します。システムレベル・テスト事業など、新規ビジネスが伸びています。

中長期成長に向けた取り組み

「グランドデザイン」(中長期経営方針・FY18-27)

<ビジョン・ステートメント>

「進化する半導体バリューチェーンで顧客価値を追求」

<経営目標>

「売上高3,000億円～4,000億円の達成」

- 成長分野へのフォーカス、顧客とのパートナーシップ強化でシェアを年1%ペースで改善 (CY17実績:36%→CY27目標:46%)
- 新規事業として、現在のコアビジネスの周辺分野の開拓

中期経営計画(FY18-20 平均)

	保守的シナリオ	ベースシナリオ
半導体試験装置市場 成長率	年0%	年4%
売上高	2,300億円	2,500億円
営業利益率	15%	17%
ROE	15%	18%
1株当たり当期利益(EPS)	135円	170円

中期経営計画(FY18-20)における投資方針

<研究開発投資>

- ✓ 年間300億円以上を継続的に投資

<M&A投資>

- ✓ 中期経営計画期間累計のM&A投資枠として1,000億円を設定
- ✓ 半導体バリューチェーンにおけるソリューション拡充に資する案件が対象

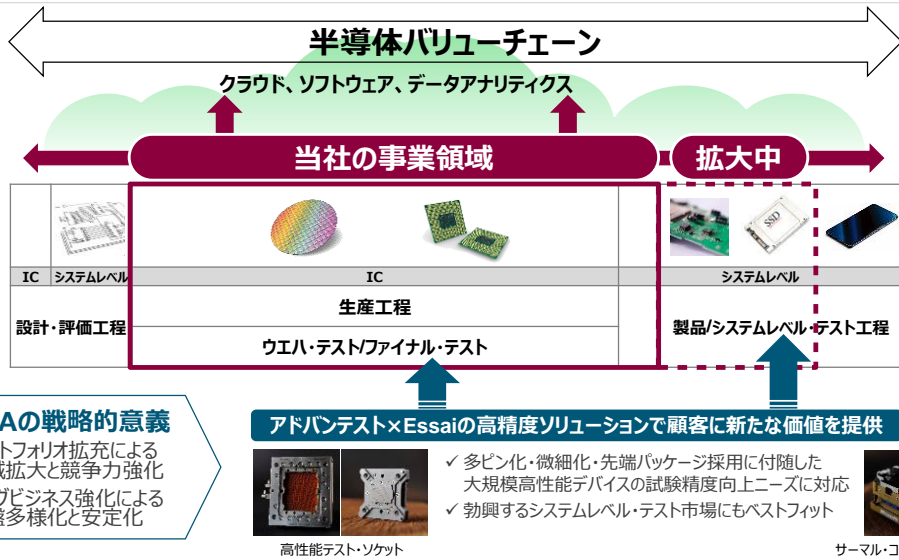
<FY19 開発投資・設備投資の見通し>

	FY18実績	FY19予想
研究開発費	379億円	400億円
設備投資	66億円	100億円
減価償却費	50億円	95億円

○ 中長期成長に向けた取り組み

- 当社は、18年4月に策定した10年間の中長期経営方針に沿って、経営を推し進めています。
- 成長分野へのフォーカスや、顧客とのパートナーシップ強化の一環として、SEや開発人員を今期増強しています。
- また売上成長の達成手段のひとつとして、新規事業の拡大も図ってまいりました。
- 現在のコアビジネスの周辺分野の開拓を、M&Aやパートナーリングを通じて進めるものです。
- それを遂行するためのM&A投資枠として、中期経営計画期間累計で1,000億円を設定しています。
- 本日プレスリリースをしました、米Essai [イサイ] 社の買収は、その一環で行ったものです。

米Essai社の買収について



当M&Aの戦略的意義

- 技術ポートフォリオ拡充による事業領域拡大と競争力強化
- リカーリングビジネス強化による収益基盤多様化と安定化

○ Essai社のM&A

- Essai社は、テスタと半導体デバイスを接続するためのソケットが主力製品の、シリコンバレーにあるテスト関連企業です。
- ハイエンド・アプリケーション用の半導体メーカーでは、Time to Market、Time to Volumeへの対応が、より重要となっています。
- そうした中で、Essai社は、顧客に迅速な製品提供を可能とする、高い設計・製造能力を持った企業です。当社の持っているグローバルフットプリント、生産ノウハウ、顧客基盤を活用することで、彼らのビジネス成長をいっそう加速することができます。
- また、彼らの製品と当社のファイナル・テスト用のソリューションやシステムレベル・テスト用のソリューションと組み合わせた、テスタからデバイス端までの精度保証ソリューションを提供することで、当社のソリューションの価値もいっそう高めることができます。
- そしてEssaiの製品は消耗品で、リカーリング売上の拡大も期待できます。
- 技術面、市場性、セールスシナジーの面、いずれをとっても当社の長期経営目標の達成に大きな貢献をもたらしてくれるものと判断し、買収を決めました。
- 参考までですが、Essai社は直近で約1億米ドルの年間売上高をあげています。FY20から、即座に利益貢献する事業であると見込んでいます。

サマリー

- SoCテストの堅調な需要とメモリ・テスト市場の持ち直しを踏まえ、通期予想を再度上方修正
- FY19は、想定以上ではあったが市場調整の年。FY20は回復の年になると期待
- オーガニックな努力とM&Aで得たリソースを融合し、引き続き業績拡大を目指す
- 米中摩擦、地政学リスク、新型肺炎など懸念は多々あるも、来年度はFY18業績超えを目標に

○ サマリー

- ハイエンドSoC向けの好調と、メモリ・テスト市場の持ち直しを踏まえ、通期の予想を再度上方修正いたします。
- FY19は、過去経験したほど深く、長い調整ではなかったとはいえ、テスト市場にとっては調整の1年であったと思います。
- FY20は、回復の年になると期待しています。SoCでもメモリでも、順次環境が良化していく可能性が見込まれます。
- また、当社の事業基盤の進化、強化は着実に進んでいます。
- 昨年2月にAstronics社からシステムレベル・テスト事業を譲り受け、そしてこの1月にはEssai社を買収と、テスト市場のトレンドを見据えたM&Aを実施しました。
- 中長期経営方針「グランドデザイン」で描いた通り、半導体チップの量産テストから、事業の範囲と規模を広げています。
- 事業環境の不透明感は継続しますが、半導体市場の回復と事業体制の変化によって、来年度は好調だったFY18の業績を超えていけるよう、チャレンジしたいと考えています。